

## 「高齢期に向けた『備え』に関する意識調査」のポイント

内閣府が発表した、「高齢期に向けた『備え』に関する意識調査」によると、高齢期への「経済的な備え」については「かなり足りないと思う」とする人は50.4%となっています。「高齢期の健康の維持増進に備える上での不安」は「医療費がどのくらいかかるか、わからない」が25.3%で最も多く、「仕事（家事）が忙しくて、休養や睡眠時間が十分に取れない」が23.5%となっています。

### 1. 調査の内容

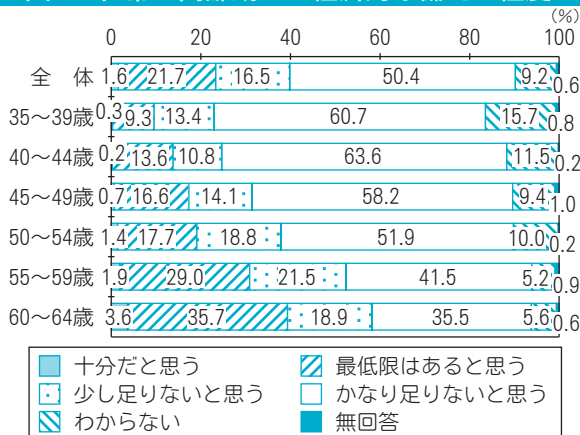
「全国の35歳から64歳（平成25年10月1日現在）の男女6,000人を対象に、資産、就労、社会参加等の事項に関する意識と現状を把握した上で、それぞれの事項に係る阻害要因を分析し、高齢期に向けての若年期からの備えを促進する方策について検討する」となっています。

### 2. 調査結果の概要

#### （1）経済的な備え

■世帯の高齢期への経済的な備えの程度についてみると、「十分だと思う」（1.6%）と「最低限はあると思う」（21.7%）を合わせた「備えはある」とする人の割合は23.3%、「少し足りないと思う」（16.5%）と「かなり足りないと思う」（50.4%）を合わせた「足りない」とする人の割合は66.9%となっています。（図1）また、若年層ほど「足りない」とする人の割合が高くなっています。

図1：世帯の高齢期への経済的な備えの程度



資料：内閣府「高齢期に向けた『備え』に関する意識調査」（平成25年）  
（注）対象は35歳から64歳までの男女

■世帯の高齢期に備えて必要と思う貯蓄額については、「2,000万円くらい」とする人が19.7%、「1,000万円くらい」が19.5%、「3,000万円くらい」が19.1%で、ほぼ同じ割合が多い。一方、「わからない」は15.8%となっています。

■高齢期の生計を支えたいと思う収入源についてみると、「国民年金や厚生年金などの公的年金」が最も多く82.8%であり、次いで「貯蓄または退職金の取り崩し」が46.2%、「自分（または配偶者）の給与による収入」が45.6%、「民間の個人年金」が15.2%となっています。

#### （2）就労に関する備え

■60歳以降の収入を伴う就労の意向と就労希望年齢についてみると「65歳くらいまで」とする人が31.4%と最も多く、次いで「働けるうちはいつまでも」が25.7%、「70歳くらいまで」が20.9%となっています。

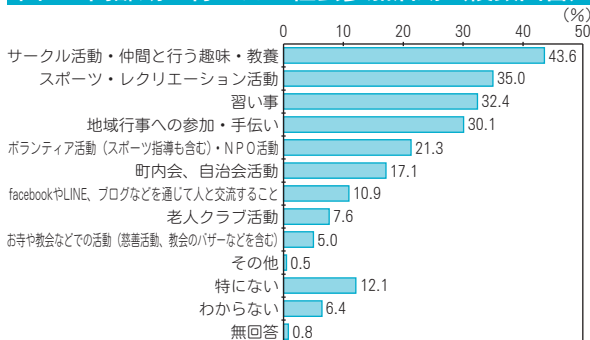
■60歳以降に働くことを希望する理由については、「生活費を得たいから」とする人が76.7%と最も多く、次いで「自由に使えるお金が欲しいから」が41.4%、「仕事を通じて、友人、仲間をることができるから」が30.1%、「生きがいを得られるから」が28.9%となっています。

■高齢期に働くために最も必要と考えることは、「健康・体力づくり」とする人が58.8%と最も多く、次いで「さまざまな人に対して柔軟に対応できること」が13.1%、「知識・技能・技術の習得」が12.5%となっています。

### (3) 社会参加に関する備え

■高齢期に行いたい社会参加活動についてみると、「サークル活動・仲間と行う趣味・教養」とする人が43.6%と最も多く、次いで「スポーツ・レクリエーション活動」が35.0%、「習い事」が32.4%となっています。一方、「特にない」は12.1%となっています。(図2)

図2：高齢期に行いたい社会参加活動（複数回答）



資料：内閣府「高齢期に向けた「備え」に関する意識調査」(平成25年)  
(注) 対象は35歳から64歳までの男女

■高齢期の社会参加活動を行うために今すべきことについてみると、「一緒に活動する仲間を作ること」とする人が最も多く51.4%、次いで「地域に知人を作ること」が35.2%となっています。しかし、今行っていることについてみると、「特にない」が45.1%と最も多く、次いで「一緒に活動する仲間を作ること」とする人が20.1%となっています。

### (4) 健康に関する備え

■高齢期の健康に関する不安の程度をみると、「時々感じている」とする人が49.8%と最も多い。「常に感じている」(23.1%)と「時々感じている」(49.8%)を合わせた「不安を感じている」とする人が72.9%、「あまり感じていない」(20.5%)と「考えたことがない」(4.1%)を合わせた「感じていない・考えたことがない」は24.6%となっています。

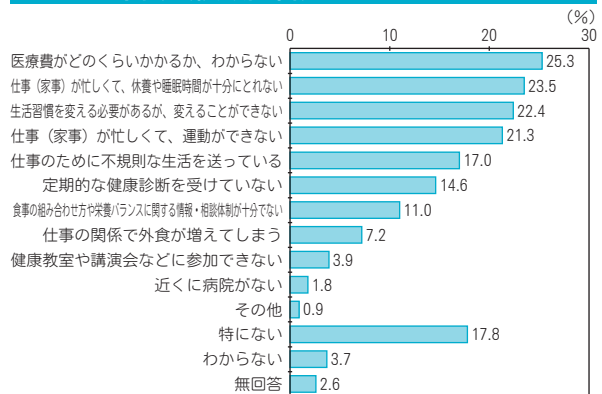
■高齢期に備えた健康の維持増進に必要なと思うことについてみると、「散歩やスポーツ・運動をする」とする人が77.1%と最も多く、次いで「規則正しい生活を送る」が72.6%、「休養や睡

眠を十分とる」が71.0%となっています。一方、健康の維持増進のために現在心がけていることについてみると、「休養や睡眠を十分とる」とする人が51.6%と最も多く、次いで「栄養のバランスのとれた食事をとる」が47.4%となっています。

「必要だと思われること」と「実際に心がけていること」の間には乖離が見られています。

■高齢期の健康の維持増進に備える上での不安についてみると、「医療費がどのくらいかかるか、わからない」が25.3%と最も多く、次いで「仕事(家事)が忙しくて、休養や睡眠時間が十分に取れない」が23.5%となっています。(図3)

図3：高齢期の健康維持増進に備える上での不安（複数回答）



資料：内閣府「高齢期に向けた「備え」に関する意識調査」(平成25年)  
(注) 対象は35歳から64歳までの男女

### (5) 住宅に関する備え

■高齢期に住みたい住居形態についてみると、「持家(一戸建て)」とする人が62.2%と最も多く、次いで「持家(集合住宅)」が13.0%となっています。

■高齢期に住みたい住居を選ぶ際の条件についてみると、「引き続き住み続けられること」が59.8%と最も多く、次いで「家賃を支払う必要がないこと」が45.0%、「高齢者への支援・サービスが充実していること」が30.1%となっています。

平均寿命は、平成24年現在、男性79.94年、女性86.41年です。今後も延びると見込まれており、早い時期からの「備え」が大切です。

(奥 桂子)